

「真名川ダム水源地域ビジョン推進委員会」設立趣意

21世紀のダム管理では、従来のダムの治水・利水に加えて水源地域の自立的・持続的な活性化を図り、水循環等に果たす水源地域の機能の維持や、自然豊かな水辺環境や伝統的な文化資産等の利用によって、流域の発展へ貢献する役割が期待されている。

真名川ダムでは、真名川ダム水源地域ビジョン策定委員会により、現代の発達した社会経済と調和した水循環の保全を図り、これによって「名水のまち・大野」の再生、「大野の活性化」への寄与を目的とした「真名川ダム水源地域ビジョン」（以下、ビジョンと言う）を平成16年3月に策定した。

このビジョンにおいて、その理念は「奥越の山々に抱かれた名水のまち 大野 の水ランドデザインを目指して」であり、その施策の柱は、水源林の保全、大野の水、上下流交流にあるとしている。

このビジョンを推進するためには、地域住民の参加の拡大、関係行政機関およびダム管理者の総合的な連携と協力が必要と考える。

このため「真名川ダムビジョン策定委員会」を受け、新たにビジョンを推進する会議として「真名川ダム水源地域ビジョン推進委員会」を設立するものである。

平成17年 4 月19日

「真名川ダム水源地域ビジョン推進委員会」委員構成

(敬称略、順不同)

委員長	福井大学 教授 野嶋 慎二
委員	大野市長
”	大野市区長連合会 理事
”	真名川土地改良区連合 理事長
”	大野市観光協会 会長
”	九頭竜森林組合 組合長
”	大野市漁業組合 組合長
”	大野市連合ふわ女性会 会長
”	大野商工会議所 建設部会長
”	大野青年会議所 理事長
”	OASIS協会 会長
”	NPOドラゴンリバー交流会 理事長
”	北陸電力(株) 福井支店 技術部長
”	福井市建設部 部長
”	大野市教育委員会 教育長
”	福井県河川課 課長
”	大野土木事務所 所長
”	近畿地方整備局河川管理課 課長
”	近畿地方整備局福井河川国道事務所 所長
”	九頭竜川ダム統合管理事務所 所長

水源地域ビジョンとは

「水源地域ビジョン」は、ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的として、ダム水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する水源地域活性化のための行動計画です。

詳細は国土交通省 土地・水資源局 水資源部のホームページをご覧ください。

<http://www.mlit.go.jp/river/kankyousuigen/index.html>



真名川ダムと麻那姫湖

真名川ダム水源地域ビジョンとは

真名川ダムは、大野市や下流の福井平野の住民の生命と財産の安全（治水）、河川の水環境の保全と維持および水利用（利水）の面で、経済の発展や住民の安全で快適な生活のため、大きな役割を果たしてきました。

21世紀の時代となった現在、これからのダムの役割には、豊かな自然と広大な水面をもつダムと個性豊かで伝統的文化を持っている大野市における自立的・持続的な振興、ダム本来の役割である「治水」「利水」「環境」それぞれの機能の発揮、また流域全体の均衡ある発展が期待されています。

「真名川ダム水源地域ビジョン」は、こうしたダムへの期待の実現に向けて、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図る総合的な整備への転換を目指したものであり、総合的な施策によって大野市や真名川ダム周辺地域の振興・活性化を図るための行動計画です。

真名川ダム水源地域ビジョンの背景と目的

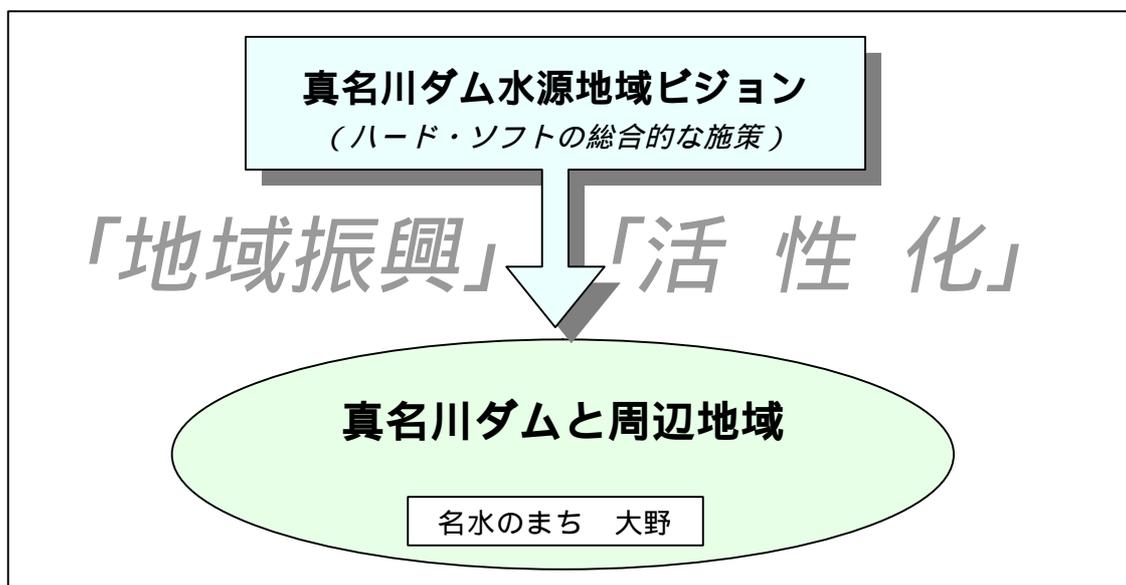
真名川ダムが位置する大野市では、ダム直下流の大野盆地に市街地を形成し、古くから奥越の政治経済の中心都市として栄え、特に大野盆地の豊かな地下水によって「名水のまち」として親しまれてきました。しかしながら、高度経済成長期の都市への若年労働者の流出、その後の農林業の構造的な不振などによって、地域の社会経済の停滞を招いて久しい状況であります。

また、大野市では豊富な地下水による湧水池やイトヨの生息など、城下町の落ち着いた佇まいの中に豊かな自然を実感できる生活環境が特徴でありましたが、近年の生活の高度化による地下水の利用増加等の結果、市内の地下水位の低下が著しく、市内の湧水池も往時の風情を失いつつあります。

このため、大野市では観光を中心とした地域活性化の取り組みが進められるとともに、独自の地下水調査に取り組み、「水の見えるまちづくり」など、地下水の保全と地域活性化を結びつけた独特な施策を目指しています。

「真名川ダム水源地域ビジョン」は、こうした大野市の活性化や健全な水循環を構築する観点から、既に実施・展開されている地域活性化や水資源の総合的な保全と活用に関する様々な施策とともに、地域の住民、自治体、関係行政機関およびダム管理者が連携・協力して取り組み、流域内の連携と交流による流域圏のさらなる発展を図ることを目的としています。

施策の範囲は、集水区域の水源林の保全から大野市内の観光・交流の受け皿づくりまで多岐にわたる内容となるものであり、ダム管理者が事業主体となる施策とともに、大野市域における官民連携による多様な事業が必要になると考えられ、これら組織横断的かつ総合的な取り組みに対応した事業推進体制が求められています。



真名川ダム水源地域ビジョンの方針

真名川ダム水源地域ビジョンは、大野の水文化の再生を目指し、現代の発達した社会経済の中に、昭和30年代の大野の水情緒を実現する「水のランドデザイン」を描くものです。この「水のランドデザイン」は、大野の山や川を「里山」や「身近な自然」として再生し、この再生の段階を地域活性化のテーマとするものです。そして、この再生は大野市民の清らかな心が一つになることで、大野の水を清らかで豊かなものにしていくことです。市民参加によって大野の水管理を行い、下流域の広範な人々へ理解や共感を広げていくことを目指しています。

もとより水に係る施策は、農林業をはじめとする幅広い関連関係機関によって実施されているため、具体的な施策の実施では、数多くの合意形成を積み重ねていく必要があります。真名川ダム水源地域ビジョンを有効に活かし、大野の水を軸とした新しい地域活性化を引き出すため、官民の各関連関係機関の連携・協力により、実施するものです。

1) 里山の再生 水源林を保全する

健全な水循環を確保する第一歩であり、荒廃した緑のダムを人々の理解や愛着によって再生する必要があります。大野市では天然広葉樹の面積比率が高く、水源涵養効果を上げやすい林相にあります。林業の活性化だけでなく、国土保全として防災的な必要性とともに、雇用確保としても今後の社会的な課題となることが考えられます。

2) 清水や水路の自然再生 地域的な水管理に取り組む

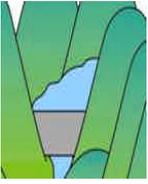
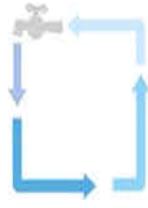
大野の地下水は様々な用途で利用され、今日も重要な地域資源となっています。また市内の水路や河川も地下水涵養の供給源であり、「清水」とともに市民生活における貴重な水との接点となっています。この地下水や表流水を保全し、大野の情緒ある生活環境やうるおいのある自然環境を再生します。

このためには従来の地域用水の様々な管理状況を見直し、真名川ダムの貯水池運用の工夫とともに、下流の水路網の整備による農業用水の配水管理を検討します。この結果、イトヨやホタルが生息する水空間の再生や豊かな地下水を取り戻すことと、水管理における関係機関での調整や市民参加での取り組みが極めて重要となります。

3) 人間関係の再生 上下流交流を促進する

大野の水環境を改善しながら、高齢者福祉まで含めて地域の相互扶助が拡充していく必要があります。地域の水環境の保全は、地域の共同体を再生していくことでもあります。これに下流との広域交流を加えて、交流の受け入れ体制づくりなど、地域の結束を高めて人間関係を豊かにすることが重要です。

水のグランドデザインとしてのビジョン施策のメニュー

施策の柱	施策	具体的内容
水源林の保全 (水源涵養と 林業の活性化) 	森林施業との連携	・健全な水循環・水源涵養機能保全や観光資源の保全のための森林施業と連携した山林の維持管理・保全
	雑木林(里山)の活用	・交流拡大のための下草刈りや落葉かき等、山林保全活動と組合せて楽しめる多彩なイベント・メニューの提供
	林業ボランティア	・循環型社会や環境をテーマに活動する各種の組織・団体等の幅広い環境ボランティアとの連携の検討 ・環境保全活動へのボランティア参加についてのメニュー企画や、意識啓発及び地域間交流の促進
大野の「水」 	ダム管理と 周辺整備	河川の維持流量等の確保の研究 ・適正な水利用、河川及び市内水路での流量確保の研究 ・非かんがい期の「目に見える水路」に水を流す検討
		地下水保全を図る貯水池運用の研究 ・真名川ダム貯水池運用の工夫による放流可能量の確保や、それによる地下水涵養等の研究
		中島公園の充実 ・日帰り・宿泊用のレクリエーションの機能の充実 ・周辺の山を生きた自然観察園としての活用 ・川や湖面での釣り等、水面の活用についての研究
	大野盆地の 健全な水環境 	水路網の復元 ・大野市の風景として市内を流れる水路網の景観保全 ・覆蓋されている水路での「せせらぎ」の可視化
		水を活かした公園づくり ・水環境・親水性のある公園(ビオトープ)の整備
		農業用水管理との連携 ・地下水涵養源である田圃による湛水期間と面積の拡大 ・用排水路に可能な限りの通水
		地下水位のモニタリング ・市内中心部の地下水位の監視の継続 ・市民や地下水利用者への理解のための地下水状況の広報
	水と社会との 関わり (情操や環境 啓蒙活動) 	水文化や愛護活動 ・水文化や水の歴史をテーマにしたフォーラム等の開催 ・水環境保全の活動(河川清掃・生き物観察等)企画
		親和性の高い水生生物の保全 ・イトヨなどの水生生物とその生息環境保全の活動の継続 ・水辺の再生とそこに生きる動植物の保全活動
		家庭排水対策 ・家庭雑排水の市内水路への直接排水の防止 ・市民の「水に関する意識」の高揚
上下流交流 (都市との 広域交流) 	NPO活動の拡充 ・山林・河川の維持管理等、循環型社会や環境に関する各種の組織・団体・環境ボランティア等との連携や活動拡充	
	活動の人材の確保・育成 ・交流活動の活性化に関する人材の発掘、人材ネットワークの作成、活性化活動をリードする団体・個人等の育成 ・各分野のマイスターや環境学習インストラクターの募集	
	近隣地域との相互訪問 ・環境保全活動へのボランティア参加についてのメニュー企画や、意識啓発及び地域間交流の促進	
	県外との交流 ・受益地等の関係地域の住民による水源地域の維持管理の参加のため、環境ボランティアの参加・受入れ体制の確立	
	中山間地域の活用 ・周辺市町村からの誘致などによるグリーンツーリズム	
各種情報の発信 ・水源地の実態や都市交流のための情報発信 ・地域の相互連携や都市との交流のための各種情報の発信 ・光ファイバー網の活用		